

【コラム】 インド

横行する粗悪なジャーナル

アルップ・ミトラ

中央レベルと州レベルの大学・研究機関

インドの大学・研究機関や研究者がどのように評価されているのか。評価は大学や研究機関の間の研究資金の配分にどのようにかかわっているのか。研究者の給与や昇進は評価制度とどのようにリンクしているのか。つまり、評価制度は研究活動にどのようなインパクトを及ぼしているのか。

大学への資金の配分の決定に関して、インドにおいて政府から資金を受け取っている大学にはふたつのタイプがあることを、はじめに示しておきたい。ふたつのタイプとは国立大学と州立大学である。国立大学は最優先され、資金は中央政府から供与され、州立大学が州政府から受け取る金額を大きく上回る。国立大学の教員や学生は州立大学よりもかなり恵まれた環境を享受している。国立大学の教員は定年の年齢までも高い。

国立大学の間で資金がどのように配分されているのかは、公には知られていない。学術的な要因だけではなく、宗教的、地域的な要因も考慮されると考えられている。

州立大学はどこも資金の不足に悩んでいる。その結果、州立大学はリソースを得るため、有料のコースを設けざるをえなくなっている。国立大学でも、一部の学科では有料のコースを開いている。研究環境は大学間で大きなちがいがあるが、州立大学間のちがいは国立大学間のちがいよりも大きい。

社会科学の研究機関にはおもにふたつのタイプがある。ひとつは、中央政府の人材開発省が、その関連機関である ICSSR をとおして管理している研究機関である。もうひとつのタイプは州政府の管轄下にある。これらの研究

機関は研究資金のうちの一定額を ICSSR や州政府からそれぞれ供与されている。残りは研究や訓練、そして場合によっては寄付によって賄っている。このふたつ以外にも第3のタイプの研究機関もある。それは政府の各省の直接の管轄下にある研究機関である。その資金の大部分は政府から供与される。また、民間の研究機関もある。その資金は国際的な援助機関を含む種々のソースから調達している。

国立大学も、州立大学も、UGC のガイドラインによって管理されている。一方、著名な研究機関の大部分は ICSSR のもとにある。ICSSR は資金の配分のため、不定期に研究機関の評価を行っている。ICSSR 傘下の研究機関は昇進に関して、UGC のガイドラインにも従っている。ただし、ガイドラインの適用にあたっては、それぞれの必要に応じて若干の修正が加えられている。

具体的な評価項目には以下のようなものがある。ICSSR の研究機関への資金供与のための評価の項目は、①ジャーナル論文や図書などの研究成果の出版、②助成を受けたプロジェクトの実施、③方法論、特定の研究テーマ、量的および質的方法に関する訓練プログラムの実施、④会議やワークショップの開催、⑤内外の会議への参加、⑥研究から得られたインプリケーションに基づく政策提言や、政策ブリーフの刊行、⑦政策立案者との交流や、政策インプリケーションを含む研究成果の普及である。個々の研究者の昇進等のための評価の項目は、上記の①②③④⑤のほかメディアへの寄稿がある。

ジャーナル論文重視の評価制度と粗悪なジャーナルの氾濫

インパクトファクターの高い国際ジャーナルに掲載された論文には最大の評価が与えられる。チャプター論文はたとえ高名な出版社から刊行された図書に収録されていたとしても、国際ジャーナルに掲載された論文と比べて低く評価される。単著は編著よりも高く評価されると考えられている。また、出版社の評判はとても重要である。国際的な出版社が最も好まれる。インド

の出版社は制度のなかで周縁化されていて、地域的な市場をターゲットにしている。

ジャーナル論文が図書よりも重要となったため、世界的にも、インド国内でも、新しいジャーナルが続々と刊行されている。この種のジャーナルの多くは掲載料と引き換えに論文を掲載し、学術的な価値は二のつぎにしている。なかにはネットワークを使ってUGCの認定を得ているものもあるが、インド国内で発行されるそういったジャーナルを識別し、敬遠することは可能である。しかしながら、国際的に発行されている場合、みかけは立派に見えるため、ブラックリストに載せることは簡単ではない。

このようなジャーナルは確実に学术界に多大なダメージを与えている。これらのジャーナルは往々にしてオープンアクセスとなっているため、それに掲載された多くの凡庸な論文が注目され、多数の論文から引用されている。そういった引用に基づいてジャーナルのインパクトファクターは上昇し、論文を掲載した研究者は昇進しやすくなるのである。このように、悪循環が学术界に持ち込まれ、偽物の低レベルの研究が正当化されている。昇進検討委員会は評価の基準に機械的に従う。基準が見た目ではかなり厳格にみえても、よく吟味すれば、ごまかすことが可能であり、操作の余地が残されていることがわかる。

全体としていえることは、評価においてジャーナル論文を過度に強調することは、多くの粗悪なジャーナルを生み出すということである。また、若手や中堅の研究者の図書を出版しようとする意欲を減退させている。以前ならば図書の出版はどの大学でも教授となるための必須条件だったが、今ではそのようには考えられていない。代わりに学術的な土台を欠いた多くのジャーナルがはびこっているのである。

